


# ベーシックオーケストラ チャレンジコンサート 2021

*Senzoku Gakuen College of Music Basic Orchestra 2021*



2021年7月19日(月)  
18:00 開演 [17:30 開場]  
洗足学園音楽大学  
前田ホール

主催：洗足学園音楽大学・大学院

# Greeting

## ごあいさつ

本日は、洗足学園音楽大学ベーシックオーケストラ「2021 チャレンジコンサート」において戴き、指導教員を代表して御礼申し上げます。

洗足学園音楽大学の管弦打楽器新入生は、4月に入学してからこれまでに弦楽、木管、金管、打楽器に分かれての分奏や、それぞれのパート分奏、合奏を行い、授業を行なって来ました。前期の纏めとして、管打楽器と2台ピアノによる合奏。弦楽合奏による合奏。そして、オーケストラ全体合奏を発表致します。指揮は本学講師の松元宏康先生です。どの曲もオーケストラを学ぶ上で、重要な曲目ばかりです。

この前期の研究成果を基に後期、12月19日に本学芸術監督の秋山和慶特別教授の指揮により、『ベーシックオーケストラ・クリスマスコンサート2021』を開催予定です。

学生の頑張りに暖かい拍手をお送り頂きます様、お願い申し上げます。

洗足学園音楽大学・大学院教授  
渡部 亨



△新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防ぐためのお願い

- ・マスク着用の徹底、こまめな手指消毒・手洗い・咳エチケットの励行にご協力ください。
- ・大声や対面での会話はお控えください。
- ・演奏者への声援はご遠慮いただき、拍手のみとしてください。
- ・休憩時、終演後はスタッフが扉を開けるまでお待ちいただき、空いているドアから混雑を避けて入退場してください。



# Program

## J.シベリウス／フィンランディア 作品 26

Jean Sibelius (1865-1957) // Finlandia op.26

## G.ビゼー／「カルメン」 第1組曲より

2.アラゴネーズ 6.トレアドール

Georges Bizet (1838-75) // Carmen Suite No.1

II. Aragonaise VI. Les Toréadors

## G.ビゼー／「アルルの女」 第2組曲より

4.ファランドール

Georges Bizet (1838-75) // L'Arlésienne Suite No.2

IV. Farandole

## F.v.スッペ／「軽騎兵」 序曲

Franz von Suppé (1819-95) // Leichte Kavallerie Overture

～ 休憩 ～

## W.A.モーツァルト／喜遊曲 K.136 より 第1楽章

Wolfgang Amadeus Mozart (1756-91) // Divertimento K.136 I. Satz

## J.L.F.メンデルスゾーン／弦楽のためのシンフォニア 第10番 短調

Jakob Ludwig Felix Mendelssohn (1809-47) // Sinfonia Nr.10 h-moll

## P.I.チャイコフスキー／「白鳥の湖」より 第1.10.13-4.20.29 曲

Pyotr Ilyich Tchaikovsky (1840-93) // Le Lac des cygnes

## L.v.ベートーヴェン／交響曲 第5番 短調 作品 67 「運命」より 第4楽章

Ludwig van Beethoven (1770-1827) // Symphonie Nr.5 c-moll Op.67 IV. Satz

# Program Note

## J.シベリウス／フィンランディア 作品 26

フィンランドの作曲家ジャン・シベリウスの代表作と言っても過言ではない交響詩「フィンランディア」は、元々フィンランドの歩みを示す「歴史的情景」という劇の付随音楽「フィンランドは目覚める」が原曲とされている。この曲が作曲された時、フィンランドはロシアの圧政下であり、独立に向け希望に燃えていた。

冒頭はロシアの圧政下にあるフィンランドを彷彿とさせる金管楽器の重奏から始まり、それを受けて木管楽器と弦楽器(ピアノ)が、民衆の悲嘆を表すようなメロディを奏でる。その後、金管楽器とティンパニによる闘争へのファンファーレが現れると、次第に盛り上がっていき、主題に入っていく。主題が繰り返された後に、有名な「フィンランディア讃歌」の部分に入っていく、美しいメロディーが奏でられ、クライマックスへと突入する。管弦楽全体でこの曲で1番の盛り上がりがあり、壮大に終結する。

本日は、弦楽器パートを2台のピアノが担当する。

トロンボーン 森田 堅人

## G.ビゼー／「カルメン」組曲 より

カルメンとは、フランスの作曲家ジョルジュ・ビゼーが作曲したオペラ曲である。この曲はフランスの小説家プロスペル・メリメが執筆した小説「カルメン」を元に作曲されている。物語の舞台はスペイン。ジプシーの女性、カルメンへ対するドン・ホセの情熱的な愛と、男女間の捻れた恋愛関係が物語の主軸になっている。

このオペラは全部で4幕あり、今回はその中から第4幕への間奏曲「アラゴネーズ」と第1幕の前奏曲「闘牛士」を演奏する。アラゴネーズとはスペインのアラゴン地方の踊りを意味している。冒頭は闘牛場の熱気を感じさせるような情熱的な旋律から始まり、物語の結末を示唆させるオーボエの哀愁漂うソロが印象的な曲となっている。前奏曲「闘牛士」は物語を華々しく始める行進曲となっており、中間部では「闘牛士の歌」が引用されている。

誰しもが必ず耳にするこの曲を、物語の情景を表現しながら、情熱的に演奏したいと思う。

フルート 藤井 千尋

## G.ビゼー／「アルルの女」組曲 より

「アルルの女」はジョルジュ・ビゼーが1872年に作曲した、ドーデの短編小説をもとにした戯曲である。

この短編小説はフランス南部のプロヴァンス地方の物語であり、「アルルの女」も同じくフランス南部の地方が舞台となっている。南フランスの裕福な農家の息子であるフレデリは、婚約者がいるにもかかわらずアルルの闘牛場で見かけた女性に恋をしてしまう。恋の病で体調も崩していったフレデリだったが、アルルの女のことは忘れて婚約者と結婚することを決意する。そんな中、アルルの女の恋話を聞いたフレデリは再び恋に悩まされ、嫉妬に狂い、ついには高い塔から身を投げて自ら命を絶ってしまう。

そんなアルルの女に心を奪われた男の悲劇の中から今回は「ファランドール」をお届けする。「ファランドール」は「アルルの女」の舞台となるプロヴァンス地方の民謡のメロディーが2つ引用されている。一つは重厚感あふれる「3人の王の行列」、一方で軽やかにリズムを刻む「馬のダンス」。この2つのメロディーが順番に登場するが、最後は2つのメロディーが合体してフィナーレを迎える。

トランペット 江浦 蓉蓉

## F.v.スッペ／「軽騎兵」序曲

フランツ・フォン・スッペは1819年、ダルマチア地方のベルギー系貴族の家庭に生まれた。1860年に最初のウィーン風オペレッタを作曲し、その後も数々のオペレッタの曲を作曲してきた。そのため、「ウィнна・オペレッタの父」とも呼ばれている。

スッペは、1866年に「オペレッタ軽騎兵」を作曲し、ウィーンで初演された。この曲は1750年代の南ドイツを舞台に、軍隊生活を愉快地描いたものとなっている。

軽騎兵とは最小限の装備で足の速さを活かして、後方攪乱や奇襲の役割を担った兵のことである。中でも有名な序曲は、トランペットの華やかなファンファーレで始まり、やがて軽騎兵の軽やかなメロディーへと移り変わる。中間部では、クラリネットの静かな旋律から、ハンガリー風の哀愁漂うメロディーが演奏され、そこから一転して行進曲が再現された後、華やかな総奏で締めくくられる。

軽騎兵が軽やかに駆ける姿を想像しながら、聴いて欲しい。

ホルン 山田 日香流

## W.A.モーツァルト／喜遊曲 K.136 より第1楽章

モーツァルトは、作曲家として交響曲、協奏曲、オペラ、宗教曲など、数々の傑作を残したことで知られている。小さい頃から作曲やチェンバロ演奏で神童と名高かったモーツァルトは、ヨーロッパ中で演奏旅行をしていた。

この曲を作曲したのは、彼が16歳の時である。この曲をつくる少し前、イタリア旅行をしていたモーツァルトは教師マルティーニ神父と出会い、音楽の基礎知識を学んだ。その後、故郷ザルツブルクへ戻って作曲に打ち込んだ。その時期に作曲されたのがこの曲である。

この曲集を作曲したあたりからモーツァルトは、複数の旋律を互いに調和させ重ね合わせる、対位法という技法を止めている。第一ヴァイオリンに主導的な役割を与え、他のパートに伴奏の役割を与えていることがこの曲においての特徴である。そこに注目して聞いてほしい。

ヴァイオリン 鈴木 利々果

## J.L.F.メンデルスゾーン／弦楽のためのシンフォニア 第10番 口短調

メンデルスゾーンは、神童として幼少期から音楽の才能を発揮し、作曲家、鍵盤奏者として活躍した作曲家である。

この曲は、メンデルスゾーンが12歳から14歳にかけて作曲した、弦楽のための交響曲である。13曲存在するこれらの曲は、メンデルスゾーン家で毎週開催される日曜音楽会で演奏するために作曲された。14歳のときバッハのマタイ受難曲の写譜スコアを手に入れたこともあり、この曲は、バッハの影響も受けているといわれている。多彩な旋律、高度な和声と各旋律のハーモニーの調和がもたらされた作品であることが、その理由である。

彼がその後に作曲した交響曲1番であるが、直筆譜には交響曲13番と記されている。このことから、この作品群の重要性を理解することができる。

ヴァイオリン 鈴木 利々果

## P.I.チャイコフスキー/バレエ音楽「白鳥の湖」より

ロシアの作曲家チャイコフスキーが作曲した曲で、初めて発表したバレエ音楽である。

「白鳥の湖」は、バレエの代名詞とも言える作品であり、「くるみ割り人形」「眠れる森の美女」を含め、チャイコフスキーの「3大バレエ」といわれている。第2幕の「情景」では荒涼とした光景の中、月に照らされた湖で、ひと際美しい白鳥が泳いでいるシーンを表した弦楽器とハープの伴奏の上に歌われるオーボエの旋律は、白鳥のテーマとしてクラシック音楽の中でも最も有名だ。

この作品は、ロットバルトという悪魔がオデット姫を呪い、白鳥に変えてしまう物語だ。そして、悪魔の呪いを解くために愛を誓うジークフリート王子とロットバルトが戦うという、とてもドラマチックな物語であり、沢山の登場人物の感情を、音楽の盛り上がり方などで表しているとても魅力的な作品である。

沢山の方が知っている作品だからこそ、感情移入をしていただける演奏をしたいと思う。

オーボエ 岸原 伶奈

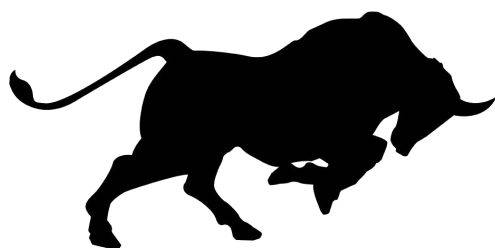
## L.v.ベートーヴェン/交響曲 第5番 ハ短調 作品 67「運命」より第4楽章

明るく開放的なハ長調の前奏で幕を開ける。本来なら暗く重い曲調の第三楽章から続きで演奏する第四楽章を、今回は単独で演奏する。ベートーヴェンが聴力を失いかけて、絶望の頂点にあった時期(1807年～1808年)に作曲したこの交響曲は、絶望感あふれる一楽章と、希望がはじけるような曲調の第四楽章がはっきりと対比されている。明るい第四楽章の途中でも、運命のテーマが影をちらつかせる。

ベートーヴェンは「人間は生きている限り、必ず不幸や苦しさが降りかかってくるものである。しかし、それを自分の運命として受け止め、辛抱強く我慢し、さらに積極的に力強くその運命と戦えば、いつかは必ず勝利するものである。」という考えをもって運命交響曲を作曲した。1808年12月22日ウィーンにてベートーヴェン本人の指揮で初演された。

金管楽器が大活躍、木管楽器も美しいメロディーをリレーする。音楽のもつエネルギーを存分に引き出し、ステージの熱気を肌で感じてもらえるような演奏をしたい。音楽の喜びにあふれた本作でコンサートは幕を閉じる。

ヴァイオリン 稲本 雄介



プログラムデザイン クラリネット 宇佐美碧

# Profile

## 指揮：松元 宏康

東京都生まれ。幼少よりピアノ、エレクトーンを学び、洗足学園音楽大学ならびに同大学附属指揮研究所マスターコースを経て、仙台フィルハーモニー管弦楽団副指揮者に就任し、プロ指揮者としてのキャリアをスタートさせた。

これまでに仙台フィルハーモニー管弦楽団、山形交響楽団、群馬交響楽団、千葉交響楽団、広島交響楽団、日本センチュリー交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、オーケストラアンサンブル金沢、九州交響楽団、大阪交響楽団、関西フィルハーモニー管弦楽団、東京佼成ウインドオーケストラ、シエナウインドオーケストラなどへ定期的に客演し、年間のコンサート出演は 70 公演以上を数える。

指揮法を秋山和慶、河地良智、増井信貴の各氏に、スコアリーディングを島田玲子氏に、クラリネットを松代晃明氏に師事する。現在、琉球フィルハーモニックオーケストラ正指揮者、ブリッツフィルハーモニックウインズ音楽監督、洗足学園音楽大学講師。（コンサートイマジン所属・東京都在住）



# 洗足学園音楽大学ベーシックオーケストラ

本学には、4年生を中心とした「マスターオーケストラ」、2・3年生を中心とした「レパトリーオーケストラ」、そして1年生の「ベーシックオーケストラ」の3団体でオーケストラが構成されています。ベーシックオーケストラの授業では指揮・管打楽器指導教員がセッティングからチューニング、音程やアナリーゼなどオーケストラに必要なスキルを修得できる様に基礎から指導しております。古典派の名曲を中心にプログラムを構成し一年間授業を行っております。





# Member

【Concert Master】 稲本 雄介

【Concert Mistress】 鈴木 利々果

【Violin】 兼子 萌花 隈元 めいみ 小玉 みどり 小林 彩 武田 妃那  
寺岡 彩菜 長谷部 羽咲 マノユ 瑠南 雨川 笑子# 菅野 稚子#  
高橋 沙織# 濱 萌香# 山口 亜純# 川田 知子<sup>♭</sup>

【Viola】 千葉 みのり 内田 和紀# 澤田 香萌# 古川原 裕仁<sup>♭</sup>

【Cello】 杵掛 雛乃 佐々木 七穂 山田 玲菜 雪江 颯太 荒 庸子<sup>♭</sup>

【Contrabass】 福田 凪佐 平木 晶穂# 矢内 陽子<sup>♭</sup>

【Flute】 池上 晏珠 打越 清楓 塩野 祐也 下 園 采奈 鈴木 ぴあ乃 瀧本 ころろ  
出口 侑奈 中村 愛美 藤井 千尋 末永 愛翔 村松 なごみ 森本 舞

【Oboe】 網谷 由唯 入谷 栞 岸原 伶奈 橋本 あみか 河村 真歩#

【Clarinet】 有田 春花 石山 穂乃花 宇佐美 碧 薄井 萌々子 大竹 彩音  
鈴木 潤 曾山 舞美 高橋 美乃 松崎 稀菜 山口 真央

【Fagotto】 長谷川 舞花 南齋 侑花# 吉田 南#

【Horn】 植田 香帆 高良 知里 山田 日香流 増永 梨花子# 吉田 真菜#

【Trumpet】 秋山 凜音 稲田 菜摘 江浦 蓉蓉 太田 和生 小松 美羽 齊藤 雄太  
清水 愛和 高橋 翔 武田 倭奈 野村 日菜乃 福山 桃花 星野 花織  
正木 航 松尾 知樹 宮澤 恵美 森本 優生 谷中 彩乃 吉井 絵理果  
LIN GUANGLUE

【Trombone】 鶴飼 輝 遠藤 愛 川上 奏太郎 神田 拓海 近藤 慶一 永野 宏弥  
本間 千尋 松田 真凜 水梨 翔太 森田 堅人 森 秀人#

【Tuba】 鈴木 颯 峯永 岳志

【Percussion】 相川 拓音 浅井 惇 石井 梨菜 内田 光太郎 大島 一輝 岡崎 颯太 鏑木 舜裕 古仲 咲希竹  
内 夏美 土居 祥大 林 まど子  
廣瀬 歌菜 松田 有平 宮下 真凜 三好 花梨 吉田 創 渡辺 歩紀

【Harp】 熊倉 里美#

【Piano】 木元 るり子(3年) 小嶋 みのり(3年) 小林 萌(3年)  
西川 真衣(2年) 西村 ゆき乃(2年) 山口 琴世(2年)  
江崎 明花(1年) 大嶋 彩花(1年) 小林 裕子<sup>♭</sup> 佐藤 全子<sup>♭</sup> 西川 麻里子<sup>♭</sup>

# : 演奏補助要員

♭ : 指導教員

企画運営責任者 渡部 亨

指導教員 松村 秀明 山脇 幸人 近藤 薫 川田 知子 古川原 裕仁  
安藤 裕子 荒 庸子 羽川 真介 今野 京 矢内 陽子 石川 滋  
齋藤 和志 辻 功 山口 卓郎 田渕 哲也 吉村 結実 佐藤 亮一  
松本 健司 近藤 千花子 鎌田 浩志 小林 利彰 中館 壮志  
伊藤 寛隆 石井 淳 石川 晃 吉田 將 鈴木 一志 勝俣 泰  
久永 重明 森 雅彦 小林 祐治 中山 隆崇 海野 匡代 神代 修  
林 辰則 古田 賢司 古田 俊博 小田 桐 寛之 府川 雪野 池上 亘  
門脇 賀智志 菅 貴登 次田 心平 渡邊 功 松本 祐二 野本 洋介  
幸西 秀彦 井手上 達 中村 祐子 山田 徹 清水 太

ピアノ指導教員 西川 麻里子 小林 裕子 佐藤 全子

助手 城野 裕子

アカデミックコーディネーター 星野 均